

令和4年度 古枝小学校 校内研究計画

I 研究主題

主体的に学び続ける児童の育成（1年次）

～体育科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉える単元デザインの確立を目指して～

II 主題設定の理由

中央教育審議会が令和3年1月に公表した答申では、「Society5.0時代」の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」という急激に変化する時代の背景から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が重視されており、“それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる”とある。「個別最適な学び」とは、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念であり、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことや支援の必要な児童により重点的な指導を行うことで効果的な指導を実現することである。「協働的な学び」とは、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないように、多様な他者と協働し、他者を価値ある存在として尊重しながら、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を育成することである。ここに示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、昨年度の研究主題「自ら進んで課題解決ができる児童の育成」の根幹となる考え方であり、古枝小学校が校内研究で目指してきた「主体的・対話的で深い学び」につながるものである。

昨年度は、算数科と体育科を研究教科として取り組んできた。算数科においては、「問題→めあて→見通し→考え→まとめ・ふり返し」という学習の流れが定着してきたことで、見通しをもって主体的に学習に取り組む児童が増えたことや対話活動を通して児童相互の学び合いにより課題を解決していくこと、一人一人が考えを深め整理することができるようになってきたことが成果として挙げられた。1時間の授業の中で個人から集団に広げること、集団から個に返すという点で「協働的な学び」が実現できたと言える。しかしながら、「個別最適な学び」という視点に立って考えると、教師が一人一人の特性や学習到達度に応じた、指導法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行い、児童が自らの学びをデザインするところまでは、十分に確立できていない。一方で体育科では、教師と児童が運動を楽しむための「問い」を共有し、一人一人が自分の能力に合わせためあてを立てて活動する中で、自ら課題を発見し、対話活動を通じた他者との関わりの中で、課題を解決していく「協働的な学び」、それぞれの課題に応じた学習の場や教材教具の選択、学習時間のマネジメントという「個別最適な学び」が児童の発達段階に応じて形になりつつある。

そこで1年次となる今年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉える授業づくりが実現しつつある体育科の指導方法を全職員で研究し、古枝の単元デザインとして確立することで、主体的に学び続ける児童の育成を目指したいと考え、本研究主題を設定した。

Ⅲ 研究のねらい

体育科「器械運動領域」における、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉える単元デザインの確立を目指す。

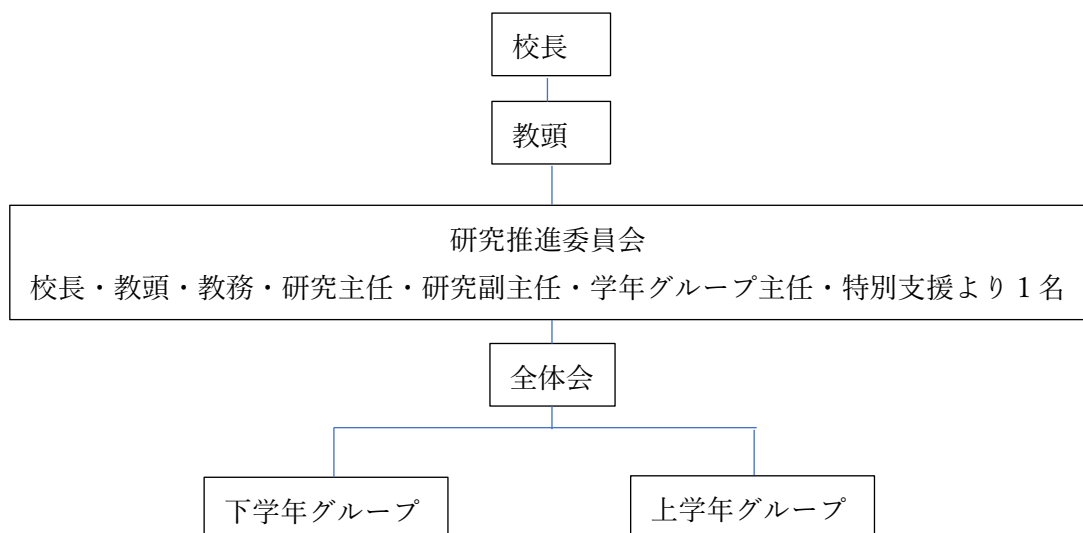
Ⅳ 研究の方法

『小学校体育指導ハンドブック』を基にした、単元構成の検討と授業実践を行う。

Ⅴ 研究の内容

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉えるための『学習カード』の工夫
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉えるための『めあて・ふり返り』のさせ方の工夫
- (3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として捉えるための『教材・教具』の工夫

Ⅵ 研究の組織



下学年グループ：朝長・山口・藤井・太田・川崎由美・下村・(松林)

上学年グループ：吉本・川崎由佳・柿原・加藤・馬場・乗田・(松林)

研究推進委員会

○下学年グループ、上学年グループで話し合ったことを研究主任が取りまとめ、取りまとめた内容を検討する

全体会

○研究推進委員会で検討したことを研究主任がまとめ、全体に提示し、必要があれば検討する。

○必要事項について、学年グループに分かれて話し合う。

研究主任

○全体会で学年グループが検討した内容を取りまとめ、研究推進委員会で提案する。

VII 研究の計画

4月5日	研究推進委員会	○研究主題の検討 ○主題設定の理由の検討 ○研究の内容の検討 ○研究の組織の検討	
4月11日	校内研修①	・研究主題の提示・主題設定の理由の説明 ・研究の組織と流れの説明 ・体育の学習の型の提示（体育指導ハンドブック） ○研究内容の検討 ○授業者、授業日程、授業単元の決定 ○指導案の形式の検討	
4月15日	研究推進委員会	○研究内容の検討 ○研究の計画の検討 ○指導案の形式の検討	
4月27日	校内研修②	・研究内容の提示 ・研究計画の提示・指導案の形式の提示 ○個人作業	
5月11日	校内研修③	下学年グループ	上学年グループ
		公開授業に向けた指導案検討	公開授業に向けた指導案検討
5月13日	グループ研究	3年生 松林 「マット運動」	
5月18日	グループ研究	6年生 柿原先生 「跳び箱運動」	
5月25日	校内研修④	公開授業に向けた指導案検討	公開授業に向けた指導案検討
6月1日	校内研修⑤	全体での指導案検討	
6月15日	公開授業	4年生 川崎先生 「跳び箱運動」	
7月6日	公開授業	1年生 朝長先生 「マットを使った運動遊び」	
7月13日	校内研修⑥	これまでの実践の成果と課題をまとめる	
8月	校内研修⑦	成果と課題の共有 公開授業に向けた指導案検討（下学年グループ）	
10月11日	校内研修⑧	公開授業に向けた指導案検討（下学年グループ・上学年グループ混合）	
11月9日	校内研修⑨	公開授業に向けた指導案検討（全体）	
11月2日	グループ研究	5年生 吉本先生 「跳び箱運動」	
11月18日	公開授業	2年生 山口先生 「マットを使った運動遊び」(武道等資質向上)	
12月14日	校内研修⑩	これまでの実践の成果と課題をまとめる	
1月18日	校内研修⑪	・成果と課題を全体で共有 ○今年度の成果と課題を受けて、次年度の研究の方向性の検討	
1月	研究推進委員会	○今年度の成果と課題を受けて、次年度の研究の方向性の検討	
2月	校内研修⑫	・次年度の研究の方向性の提示	

- ・ 6月に上学年・下学年から一本ずつ公開授業を行う。
- ・ 11月に武道等資質向上事業の公開授業を行う。
- ・ 公開授業を行わない先生方も、グループ研を行う。指導案の形式は簡略化し、管理職と研修主任を中心に可能な先生方は参加する。